



創造力とコミュニティ研究会

第12回：パンデミック時代の 新たな「公共」アート

2020年、人を選ばないウィルスの感染力は、人々を共通の意識のもとにつなぎ、さまざまな運動を起こすきっかけともなりました。

新型コロナウイルスが一番最初に襲ったのは、社会的弱者と言われる人々です。この現実には、ブラック・ライブズ・マター運動などの差別廃止運動とつながったのみならず、「差別こそがパンデミックだ」という声となって世界の人々が運動に参加するきっかけともなりました。

その運動の中で重要な位置を占めたのは、新たな「公共」の芸術です。壁や道をキャンバスとしたストリート・アートは人々の声となり、人々をまとめる力を発揮したのです。

今回は、ストリート・アートの視点から、パンデミックの中で芸術の果たす「つなぐ」力について皆さん方と話し合ってみたいと思います。

● **話題提供者：横山千晶（慶應義塾大学）**

● **日時：2021年3月16日(火)19:00～21:00**

● **場所：居場所「カドベヤ」**

横浜市中区石川町5丁目209-3 1階

<http://www.kadobeya2010.net/access/>

● **参加費無料 参加定員 10名**

今回は、コロナウィルスの感染予防のため、申し込み先着10名様のみ限らせていただきます。申し込みなしでの当日参加はできません。

参加ご希望の方は、慶應義塾大学 法学部・横山千晶 (chacky@keio.jp)まで申し込んでください。

● **なお、参加に当たっては、以下のことをお守りください。**

・マスクの着用 ・入室時の体温チェック ・手洗い ・手指の消毒

当日体調のすぐれない方は、参加をお控えください。

主催 **居場所「カドベヤで過ごす火曜日」運営委員会
慶應義塾大学教養研究センター**